

ニゴロブナ放流式を開催 ～元気に育て！ニゴロブナ1,000匹を放流～



平成21年3月23日（月）、草津市の志那漁港において、昨年に引き続き2回目となる「**ニゴロブナ放流式**」を開催しました。

放流式には、（財）滋賀県水産振興協会の栗野理事、高田会長、大道頭取が出席。「カーボンニュートラルローン 未来よし」の拠出金により増殖された「**ニゴロブナ**」3万匹のうち、**1,000匹を船上から放流**しました。放流したニゴロブナは、体長約12cmの未成魚で、（財）滋賀県水産振興

協会により約1年間育てられたものです。ニゴロブナの耳石には当行が放流したマークをつけており、一定期間後に繁殖状況などが調査されます。

この取り組みは、絶滅危惧種であるニゴロブナの放流により、琵琶湖の生態系保全と、「ふなずし」などの湖国の食文化の保全・振興への願いを込めた当行ならではのCSR活動です。



「元気に育て」と呼びかけながら、次々にニゴロブナを放流

今後、残りの29,000匹のニゴロブナが滋賀県各地の琵琶湖沖で放流されます。